

# ハレとケ

長久手市文化の家情報誌

2019/04 ▶ 2019/09

Vol.  
08



長久手市文化の家  
NAGAKUTE Cultural Center





# B'Rock Orchestra

ベルギー発、世界を席巻する古楽オーケストラが初来日！  
 予定調和はいらない、バロックは「ロック」だ！

20世紀半ばにクラシック音楽界に起きた「古楽ブーム」。現在、そのスタイルで新たなムーヴメントを起こしているのが、古楽大国ベルギーで生まれ、躍進を続ける古楽オーケストラ、ピロックです。

2005年に創設され、現在ベルギーの古楽オケの中でも最多の公演数を誇る、今最も勢いのあるオーケストラです。大胆で革新的なプログラミングで知られ、古楽と現代音楽の双方のレパートリーを持つことで、新作初演も数多く行っています。また、映像作品と古楽演奏のコラボレーションにも取り組んでいます。

常任指揮者を持たず、これまで巨匠ルネ・ヤーコプス、アイヴァー・ボルトン、アレクサンドル・メルニコフ、ドミトリー・シニコフスキーをはじめとする指揮者やソリストを定期的に迎えて演奏活動をしています。

今回の来日公演では、ゲストにリコーダー界の天才少女と名高いルーシー・ホルシュがゲストとして参加。5歳からリコーダーを始めた彼女は、華々しいコンクールの受賞歴はもろろん、数々の著名なアーティストとの共演歴からもその天才ぶりがうかがえます。

世界を席巻する古楽オケの勢いとライブ感を体験してみてください！

## ルーシー・ホルシュ (リコーダー奏者)

音楽一家に生まれ、5歳の時にアムステルダムの音楽学校でロブ・ピークのもとリコーダーを始める。9歳で出演したプリンセンクラフト運河コンサートがテレビ放送され、話題を呼んだ。2014年、ユーロヴィジョン・ヤング・ミュージシャン・コンクールにオランダ代表として選ばれ、16年には権威あるコンセルトヘボウ・ヤングタレント賞を受賞。



## 柴田俊幸 (フラウト・トラヴェルソ奏者)

香川県立高松高校卒業。大阪大学外国語学部入学後、音楽の道を志し、中退して渡米。ニューヨーク州立大学にて学び、卒業後フリーランスとして4年間活動した後、ベルギーのブリュッセル、アントワープ、ゲントの各王立音楽院にて学ぶ。たかまつ国際古楽祭を芸術監督として立ち上げ、地方からの文化発信を目指して日本とヨーロッパにて活動している。



B'Rock(ピロック)オーケストラの初来日ツアーを計画し、共演者でもあるフラウト・トラヴェルソ(バロック・フルート)奏者の柴田俊幸さんにお話を伺いました。

「そもそも柴田さんはなぜ「古楽」を演奏することに？」

うるさくないからですかね…(笑)冗談はさておき、もともとモダン楽器は好きですけど、どうしてもオーケストラなどで完璧を求めていくプロセスでイップスになってしまつて…。そんなとき出会ったのがパトリック・ビュークルスの演奏で、すごく自然で自由でした。これなら吹けるんじゃないかと思つて、教えることを拒んでいた彼に2カ月くらい粘つてレッスンを取り付け、通つて5回目にはツアーの仕事を得るようになっていました。

「ピロックオーケストラの魅力はどこにあるのでしょうか？」

ベルギーにはラ・フティット・バンドという世界的な古楽グループがありますが、「次はピロックだ」と言われています。現在は古楽の演奏法とモダンの演奏法がハイブリッドになっていく、すごく面白い時代。アカデミックなことも押さえつつ、新しいこともやる。今までのプレイヤーはどちらかに分かれていたのですが、どっちもきちんとできる集団がピロックなんです。

「ベルギーは「古楽王国」と言われていて、偉大な先人たちがいますね。」

ベルギーというアカデミックな音楽をやっているとみられることがあ

ります。ただピロックはあえてそことは違うポイントからスタートしています。オーケストラは「コンセプトがないと成功しない」と言われていますが、彼らは「過去+現在+未来」なんです。メンバーはとも寛容で「こうでない」とダメではなく「これも良いし、あれも良い」という考え方をします。例えばバロックのプログラムの中にジョン・ケージなどの現代作品を入れたり、有名な振付家によるコンテンポラリーダンスと共演してニューヨークデビューもしました。さまざまな分野の人たちから刺激を取り入れながら、自分たちのコンセプトを結実させていくのが彼らのすごいところです。



インタビューに応じる柴田さん(たかまつ国際古楽祭にて)

「長久手のお客さんに一言。」

長久手は新しく若い街と聞いています。そのエネルギーやフロンティア精神はピロックと共有できると思います。彼らはプロ中のプロで、音楽をライブで創っていく。クラシックでイメージされているような予定調和ではない演奏はとてもスリリングで刺激的。きっと長久手のみなさんにとつて初めてのエキサイティングな体験になるのではないのでしょうか。



## B'Rock オーケストラ コンサート

2019年9月12日(木) 18:30開場 19:00開演

長久手市文化の家 森のホール

出演: B'Rock オーケストラ、ルーシー・ホルシュ(リコーダー)、柴田俊幸(フラウト・トラヴェルソ)

料金: フレンズ会員 2,500円、一般 3,000円(全席自由)  
※未就学児の入場はご遠慮ください

発売日: フレンズ会員 6月1日(土)、一般 6月8日(土)

- 1 コンサート  
**《でら! 古楽》** 16:00~17:10ごろ 森のホール  
 出演: 柴田俊幸(フラウト・トラヴェルソ)、戸田薫(ヴァイオリン)、高橋弘治(チェロ) 戸崎廣乃(チェンバロ)、安達正浩(チェンバロ制作)ほか  
 料金: 一般 1,000円、大学生以下 500円(全自由席)  
※未就学児の入場はご遠慮ください  
 発売日: フレンズ会員 5月4日(土)、一般 5月11日(土)
- 2 ガレリアコンサート  
**《ストリート・パフォーマンズ古楽!》** 18:00~20:00ごろ アトリウム  
 出演: 地元の古楽演奏家、愛好家など  
 料金: 入場無料

## B'Rock プレイベント ベルギー・ナイト開催!

夏の夜、古楽の音色に癒され、ビールやフードを食べてゆったり過ごす至福の時間。  
 ベルギーナイト開催!

2019年 7月27日(土) 16:00~20:00ごろ  
 場所: 森のホール、アトリウム、北ガレリア・テラス  
 ★ベルギー・ビール、チョコレート、ワッフルなどの飲食ブースを出店予定!

# 2019 ジョイントフェスティバル

次代を担う子どもたちのために優れた舞台芸術を提供しようと、2014年から始まった「ジョイントフェスティバル」。愛知県内だけでなくとどまらず、連携会館は東海三県に拡大。今年は、小さな舞台の不思議な世界観の作品と赤ちゃん向けの知育作品の2本立て！



**ス** ペインの劇団エル・パティオによる、6歳以上の子どもを対象にした、セリフのない作品です。陶芸屋の売れ残りの小さなキャラクターが、恋と別れを経験する、優しく切ない物語。タイトルの「ア・マノ」とは、スペイン語で「手を使って」という意味。役者の手と指が、形のない粘土から登場人物を創りだしていきます。やさしく粘土のボールを押さえると目が、ちよつと摘まむと鼻ができ、粘土に命が吹き込まれます。彼らは小さな舞台の中で、生き生きとした世界を創り出していきます。あなたもじつくりと、この繊細な世界に引き込まれてください。

ア・マノ  
A・MANO

2019年 8月7日(水) 13:30/16:00  
会場: 風のホール

料 金: 一般 2,000円 子ども(4歳~中学生)500円 (全席自由)  
※4歳からチケットが必要です [適正年齢は6歳以上]  
発売日: フレンズ会員 6月1日(土) 一般 6月8日(土)

世界中のフェスティバルや劇場で上演され、数々の賞を得てきたA・MANO がついにジョイントフェスに登場！



乳幼児期は、人格形成の基礎を培う重要なとき。

MARIMOと一緒に、すべての感覚に訴えかける演劇体験を。

**乳** 幼児期に知覚の発達を促すために、は、どれだけ芸術的活動をさせるかが鍵と言われていて、演劇を体験させることもとても大切です。言葉が発しない乳児も、舞台芸術に感じ、様々な心情を感じ取ります。そして豊かな表現力や、相手の気持ちを理解する心が育ちます。また、乳児は周囲で起きていることや周囲のモノに対して、全身で、全神経を使って関わろうと、またそれに対して表現をしようとしています。Baby Theater『MARIMO』では、この子どもの主体的で自由な動きを大切にします。上演中も自然のままに、声を出しても、動いても、触ってもOK。ベビーシアターは子どもが参加することで成立する「体験の芸術」ともいわれているのです。非日常の舞台空間の中には、家では体験できないたくさんの驚きと発見、そして感動があります。どうぞお子さんと一緒に、温かてイメージーションが広がる時間を過ごして来てください。



マリモ  
Baby Theater MARIMO

2019年 9月6日(金) 11:00 開演  
9月7日(土) 11:00 開演  
会場: 舞踊室

料 金: 一組1,500円(全席自由)※2歳以上の未就学児入場不可  
対象年齢: 上演時の月齢が24ヵ月未満  
定 員: 各回15組(子ども1人と保護者1人で1組)  
発 売 日: フレンズ会員 7月6日(土) 一般 7月13日(土)



「ありのままの自分を表現します」  
—吉田珠代(ソプラノ)—

小澤征爾やメータなど、世界のトップクラスのマエストロから絶賛される愛知県立芸術大学出身のソプラノ歌手・吉田珠代さんが、5月に長久手市文化の家を訪れた吉田さんにお話を伺いました。去る1月、いち早く文化の家を訪れた吉田さんにお話を伺いました。

「久しぶりの長久手ですね。実のところ、懐かしい、というような気持ちはなくて、これって取材的にNGですよ(笑)。というのも、「長久手」という場所よりも、県芸で師事した先生と共に、音楽と向き合ったストイックな時間の方が記憶に残っています。世界の名歌手の声を直に聴いてきた先生から教わった「欧米の声の感覚」が私の礎となりました。—卒業後、新国立劇場の研修所に入られましたね。

研修生たちは日常的にイタリア語を使い、所作や振る舞いまでもがオペラのワンシーンでした。世界中の優秀な先生方からさまざまなメソッド、理論、文化の違いを学びました。自分なりの表現や主張を持つことは大事、ということはすべての外国人講師から共通して言われたことでした。

—それが後にヨーロッパでの留学生活につながったんですね。

はい。イタリアでは空気、自然、人のすべてが開放的で、自分の感性に気づきかけを与えてくれました。ミュンヘンやウィーンでは、オペラハウスに通って劇場のあり方を学び、毎日のように超一流の歌手たちの声を聴きました。オーディションの機会もありましたが、海外で歌うことにあまり興味がなく、あくまで学びのための留学になりました。

—その後、コンクールでの最高位受賞、世界第一線のマエストロたちとの共演など、さまざまな活躍をされていますが、印象に残っている出来事はありますか？

小澤征爾先生の「蝶々夫人」でのこと、私は主役のカヴァーでしたが、最後の通し稽古を終えた夜、翌日に迫った初日公

演を迎えるのみと半ば安心したところへ、主役の外国人キャストの降板が告げられました。急いで準備をしいよいよ開演、第一幕を終えたところへ小澤先生がやってきて「キミ、すごいね！日本人にこんな人いたの！」と褒めてくださいました。小澤先生は日本人の歌手に対しても、容赦なく外国人並みのベクトルで表現や音楽性を求めてくる方なので、なおのこと嬉しかったですね。あと、ウィーンフィルとの第九(ズービン・メータ指揮)で、コンサートマスターのライナー・ホーネックさんから「キミの声は、僕たちのオケの音色と波長がよく合うよ」と言われたことが、とても励みになりました。

—最後に今回のコンサートの見どころをお聞かせください。

ありのままの自分で100%気持ち乗る曲を歌いたいと思います。歌曲には春を歌う作品が多くあるので、オペラや日本の曲も含めて季節感が伝わり、お客様が春にふさわしい前向きな気持ちになつてくださるといいですね。



2016年サントリーホール・リニューアルオープン「第九」公演後、メータ氏と第一線のソリストたちと。

## profile

愛知県立芸術大学声楽専攻卒業。桑原賞受賞。同大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第6期生修了。ボローニャ、ミュンヘン、ウィーンに留学。第6回静岡国際オペラコンクール最高位及び三浦環賞受賞。小澤征爾音楽塾、サントリーホールアカデミー、サイトウキネン、「第九」や宗教曲、コンサートでも幅広く活躍。2016年メータ指揮ウィーンフィル・サントリーホール30周年記念「第九」、2017年ウィーン楽友協会での「第九」に抜擢。2018年岩城宏之音楽賞受賞。



平日マチネコンサート  
午後の佇みシリーズ2019「心に響く春の歌声」

チケット発売中

2019年 5月16日(木)  
14:00 開演  
会場: 森のホール

料 金: 500円(全席自由)  
出 演: 吉田珠代(ソプラノ)、青木ゆり(ピアノ)

# 1 イッサリスさん、おかえりなさい！



世界最高峰のチェリストである、ステイーヴン・イッサリスさんが6年ぶりに長久手に帰ってきました！

イッサリスさんはイギリスで生まれ、10歳でチェロをコウワン先生という女性のチェリストに習い始めました。彼は作曲家たちの人生や音楽についてとても面白く話してくれたそうです。こうした彼女の音楽に対する姿勢は、弟子であるイッサリスさんにも受け継がれています。彼の著書である『もし大作曲家たちと友だちになれば』では、作曲家のことをユーモア満載に「友だち目線」で語っていて、読者は年齢を問わず楽しみなが作曲家について知ることが出来ます。

リサイタル前日には、キッズ☆コンサート「イッサリスさんからの贈り物」が開催されました。素晴らしい演奏だけでなく作曲家に関するお話も聞くことができ、会場にいたみんながイッサリスさんの魅力に包み込まれていくようでした。公演後にはイッサリスさんが子どもたちの書いた絵や作文一つ一つに目を輝かせながら直筆でコメントを書いてくれました。

そして翌日に行われたリサイタルでは、聴衆が彼の演奏にみるみる引き込まれていきました。今回彼が選んだプログラムは「ブルース・プログラム」が失われた時を求めて。サン・サーンズや



フォーレ、フランクなど、20世紀を代表するフランスの小説家ブルーストと同時代を生きた作曲家の作品を中心とする選曲でした。また、彼がこだわって使っているガット弦の奥深い響きはとて心に残りました。ナポレオンへの『葬送歌』を元としたフォーレの『チェロソナタ 第2番より第2楽章』で彼が奏でた旋律は言葉にし難いほど美しく、私は今でもその音色を思い出すたびに涙が出そうになります。そして共演者であるコーニー・シーさんとのアンサンブルも圧巻で、「息がびつたり」とはまさにお二人のことを指すのだと思いました。

イッサリスさんの深い音楽性や卓越した技術は、彼の底知れぬ音楽への愛情や情熱から生まれたものなのだと私は思います。だからこそ私たちは彼の演奏を通して「音楽の素晴らしさ」を心から実感できるのではないのでしょうか。またいつの日か彼が長久手に帰ってくることを密かに楽しみにしています！  
(愛知県立芸術大学 近藤那未)

キッズ☆コンサート  
～イッサリスさんからの贈り物～  
2018年11月3日 風のホールにて公演

ステイーヴン・イッサリス  
チェロリサイタル  
2018年11月4日 森のホールにて公演



# 2 大迫力の大合奏！



吹奏楽フェスティバルは愛・地球博愛知万博記念公演として2004年に始動。長久手市の中学校や高校、大学、一般団体が集まり、出演者数200人を超える迫力満点の演奏会です。

僕は高校2年生の時、第1回吹奏楽フェスティバルに出演。世代を超えて切磋琢磨し曲を作り上げるという部活動で味わえないような経験は他になく、社会人になっても参加してきました。そんな吹奏楽フェスティバルが無くなるかもしれないとの噂を聞きました。反対の声もあり、僕自身もつたないと感じ、実行委員の代表となって運営していくことにしました。

運営側に立ったことで初めて各学校の先生と連絡し合ったり、譜面の用意、舞台のセッティング、タイムスケジュール管理等々、スムーズに進行させる方法を考えながら参加しました。ただ、大人数を動かすことや大量の事務作業は一人ではできません。文化の家のスタッフをはじめ、ステージマネージャー、関係者や団員の協力があり、裏方の仕事をやり遂げることができました。さらに指揮・指導をしていただいた長尾先生のおかげで、公演を復活させることができたと思います。

初参加が16歳で、今年で32歳。生まれて半分の年月、吹奏楽フェスティバルに参加してきましたが、意外に認知されていないのは残念。この素敵なイベントがもっと知られるよう、そして素晴らしい演奏会となるよう今後も続けていきたいです。

(吹奏楽団 実行委員会代表 志治泰樹)

吹奏楽フェスティバル2018  
in NAGAKUTE  
2018年12月16日 森のホールにて公演

# 3 身体が語るメッセージ



12月14日、風のホールにてダンス公演「Credo & Nessecitudo」が無事終了しました。今回、様々なコンテンポラリーダンスがある中でも、人間関係に焦点が当てられ、観客と共に、社会で起こっている事柄についてダンス鑑賞を通して一緒に考えてみるきっかけとなるような、メッセージの強い作品を上演しました。それゆえに、初めての鑑賞となった方々には、疑問も多く残したことでしよう。しかし、終演後多くの方が各々にこのメッセージに対する見解を言葉にしてください、改めて身体表現の語る雄弁さを感じました。

ダンスの公演とは、実は気軽に、観たまま、思っただけで受け止めることができるような「機会」だと思っています。ダンスを見た後に、周りの人のことを思い出したり、作品について、初めて会う人とも話せたり：そんなことが起こるといいなと願っています。

コンテンポラリーダンスというアートにとって、非常に重要な一歩を踏み出しました。今後、文化の家がその中心になっていけるよう、次回企画も試行錯誤中です！  
(創造スタッフ 豊永洵子)



コンテンポラリーダンス公演  
工藤聡振付作品  
Credo & Nessecitudo  
2018年12月14日 風のホールにて公演

芸術が、社会に対してできること。

**平** 成29年度、文化芸術に関する法律「文化芸術振興基本法」が改正され、名称が「文化芸術基本法」へと変わりました。文化芸術そのものの振興ではなく、文化芸術を「活用」する時代へ、文化芸術が担うべき役割が変わってきています。改正後の文中には、「社会包摂」という言葉も登場しました。「社会包摂」とは、社会的に弱い立場にある人々も含め、すべての人を排除や摩擦、孤立や孤立から援護し、市民ひとりひとりが地域社会の一員として取り込み、支え合う事ができるようにするという考え方。近年では社会包摂事業に取り組み劇場も増え、文化芸術を取り巻く環境



に変化が訪れています。文化の家でも、これまで以上に社会包摂に特化した事業「ふくしであーと」がスタートしています。特別養護老人ホーム、障がい者のためのデイサービスなど様々な福祉施設や講演会で演奏の機会をいただいています。

平成30年度に試験的に実施した福祉施設へのアウトリーチでは、通常のフリースペースでの演奏だけでなく、他に例を見ない「あなただけの演奏会」と称して、リクエスト曲を尋ねて招待状を送り、個室へ赴いて一人のために演奏するといったことも行っています。

施設のなかで毎日決められた時間割りで生活している方たちにとって、自分の意思でコトが動き、希望が通るとするのは貴重な経験です。自分のリクエストに演奏家が応え、自分のために演奏会をしてくれるというのは、普通に生活していても滅多にない経験ではないでしょうか。

社会福祉が支援の対象とする人々は、貧困であったり、病気や障害など深刻な課題を抱えていたり、質の高い文化芸術に触れる機会が少ない場合が多いです。文化の家としては、そうした人々が文化芸術に触れる場を作ることで、豊かな気持ちになったり、能動的に楽しむ機会を生み、生きがい作りや自己肯定感の向上などにつながるすべしと考えています。

中心となつて演奏しているのは、元創造スタッフの石川貴憲さん。石川さんは、今年度からスタートした新制度「フランチアーティスト」の福祉分野の演奏家として活動しています。創造スタッフとして

活動するなかで得たアウトリーチ等の豊富な経験を活かし、特定分野の事業で活動してもらおうという制度です。

とある演奏家のコンサートで、強く感動したという石川さん。音楽には力があることを確信し、その心が動く、という経験を多くの人とシェアしたい、分かち合いたいと思ひ、自身も演奏家としてそういう演奏をしたいと思うようになったそうです。どんな聴き手にも音楽の力が作用する可能性はあり、自分の演奏を聴いてなにか感じてもらえたら嬉しいと語っていました。

これからの活躍に、乞うご期待！



# New

## 創造スタッフ紹介

### 弓立翔哉 ゆだてしようや

愛知県名古屋市出身。名古屋音楽大学打楽器コース卒業。同大学院を修了。オーディションにより選出される大学主催の演奏会に数多く参加。その中のオーケストラとソリストたちのタペでは、Avner Dormanの打楽器ダブルコンチェルト“Spices,Perfumes,Toxins!”を日本初演した。バリ島の民族楽器のガムランを研究しており、インドネシアで行われるバリアートフェスティバルに客演。また、名古屋打撃楽団のメンバーとして、定期的な台湾への演奏旅行を行うなど、グローバルに活躍している。現在は中学高校の吹奏楽のコーチ、ドラム講師、学校や老人福祉施設などへの訪問演奏など、幅広い分野での音楽活動を行っている。また、自身のバンド“TriTuuuNe”での活動も積極的に行っている。打楽器を山口恭範、深町浩司、窪田健志に、マリリンバを山下文恵、高藤摩紀に、ドラムを黒田和良各氏に師事。

**皆** さま、はじめまして！今年度より創造スタッフとして参加させていただき、弓立と申します。専門はクラシック打楽器やドラムセットの演奏ですが「叩いたら音が出るものは全て打楽器！」ということで、楽器として販売されているものから、そんなものまで叩くの？と聞かれるような鉄くずや木の板など、何でも楽器にしてしまいます。観に来て頂いた方に打楽器の楽しさ、そして奥深さを感じ、耳と目でお楽しみいただけるように気合を入れて頑張ります！！

//////////////////// 創造スタッフとは…？ //////////////////////

高い芸術性、卓越した専門性に基づく豊富な知識や優れた技能、技術を活かし、文化の家職員やスタッフ、関係者などと連携を図りながら、文化の家の創造的事業の企画や実施、運営に携わります。



## 創造スタッフ紹介

### 昨年度の振り返りと今年度への意気込み



**細川杏子 (フルート)**

右も左もわからないまま、勢いだけで突っ走った1年目でした…。そんな中でいろんなイレギュラーな編成や、普段することのない場所での演奏、美術・表現系のスタッフの方々とイレギュラーな組み合わせでの機会もあり、自分にとっていろんな「初体験」がありました。初めて反省や失敗はつきもの、かと思ひますので今年度はその反省や失敗を活かしてさらなる「初めて」への挑戦の年にしたいと思います！



**了徳寺佳祐 (作曲)**

昨年は「おんぱく」があり、多くの方々いつも以上に音楽と触れ合うことができたのではないのでしょうか。私はダンス・美術との企画「偶像の魚」を筆頭に、音楽から飛び出した領域へのチャレンジを多く試みました。2年目は1年目よりもさらに邁進すべく、2020年の予定まで見越して行動中です。とくに楽曲制作・演奏面をより充実させて、自分の専門をより厳しく見つめ直し、より創造的で独創的な刺激ある音楽をお届けしたいです。



**豊永洵子 (コンテンポラリーダンス)**

昨年度は、創造スタッフ2年目にして多くのご協力の下、文化の家主催のダンス公演を実施することができました。文化の家にダンスあり!!を少しずつですが、浸透させていっています。ですが、まだまだ、序盤…!!今年度も心新たに、長久手市の皆様に表現の奥深さを知っていただけるような企画・イベントを盛り立てていきたいと思ひます!!ぜひ、「観る」ダンス「感じる」ダンスを文化の家で体験してみてください。



**橋寛憲 (造形)**

昨年度は8月に「おんぱく」があり、ワークショップの準備で材料探しに行ったり、新しい杖を作ったりと、動いて考えて充実した時間でした。体調を崩したりもしましたが、下半期もNAFや創造スタッフコンサートなど、何とか乗り切れた気がします。今年度は(毎年言ってますね、なかなか実行できなくてごめんなさい)工作のワークショップをしたいです。直接一緒に何かを作る機会を増やしたいです。



**小林大地 (造形)**

昨年度は一歩進んだという手ごたえを感じました。館内装飾は今まで一番良い雰囲気を作れた。「おんぱく」の演奏者衣装もかわいいのができた。子ども向けワークショップは無理なく楽しいものを。冬のコンサートでは理想のシーンを。個人的な作品は細部まで作りこめた。自画自賛が多い年でした。作業をお手伝いしてくれた方々にも大変感謝です。今年度もこの流れが続くように。もっと自分本位に濃い作品作りができますように。



**藤島えり子 (情報/演劇)**

2018年度は個人的に忙しいながらも、やりたいことの第一歩を踏み出した年でした。創造スタッフ有志でギャラリーでのパフォーマンス、参加者を募っての「えんげきりピンギ」。この二つを実践してみ、さらにその先のやりたいことが広がったように思ひます。2019年度はそれを踏まえて、もっとたくさんの方と関わることのできる演劇分野の企画が出来たらと思っています！あつ、もうひとつ身体が欲しいっ!!



**石川 貴憲 Ishikawa Takanori**

山口県下関市出身。愛知県立芸術大学音楽学部卒業。第3回ナゴヤサクソフォンコンクール若手演奏家部門において第1位。第15回大阪国際音楽コンクール木管部門において入賞。サクソフォン、チェロ、ピアノの編成でピアノ三重奏の名曲を取り上げるトリオ「ともしび」として活動中。コンサートグループ「花の詩」会員。「長久手市文化の家」にて演奏、ワークショップ、演奏会の企画に携わる契約アーティスト「創造スタッフ」を経て、特定分野に特化した「フランチアーティスト」として活動中。児童施設や学校へのアウトリーチなど様々な場の演奏に携わる中、現在は福祉分野に強く関心を持つ。

### 平成30年度のふくしであーと

- 2018/12/13 南生協病院 (名古屋市緑区)
- 2019/1/11 たいようの杜 グループホーム嬉楽家 特別養護老人ホーム ハモリー館・杜つと館 (ともに長久手市)
- 2019/1/21 地域密着型特別養護老人ホーム ひらばりみなみ (名古屋市天白区)
- 2019/2/17 犯罪被害者の会「緒あしす」いのち奏でる (名古屋市西区)
- 2019/3/27 いきいきライブパーティー(長久手市主催)



# えんとゆかり

第1回 平塚直隆 Hiratsuka Naotaka

このコーナーでは文化の家ゆかりのアーティストを紹介します!

文化の家で生まれ育った劇作家で、日本で一番有名な平塚と言えば誰でしょう? という質問がもしあったとしたら、まさきに思い浮かぶであろう平塚とは僕の事です。僕が文化の家に通うようになったのは、はせさんの戯曲講座です。それが2000年だから、僕の劇作人生、今年で19年、と分かりやすいのです。その間、戯曲講座の発表会、「劇王」、毎年僕の作品を上演させて頂きました。そして劇団を作り、オイスターズでは初めての市民参加型「大トラックメロウ」

もやらせていただき、「はだか道」もやりました。思い返せば困った時に手を差し伸べてくれるのはいつも文化の家でした。そうそう、佃さんの「ぬげがら」にも出演しましたよ。こうして毎年何かしらで通っていて、これは僕にとってどの劇場よりも長い付き合いで、どの彼女よりも長いです。もはや家族です。ああ、だから「家」か。ということで、来年は僕20周年なので、何かやらせてください! ちゃんと帰宅しますので! 平塚直隆(オイスターズ)



長久手市文化の家 情報誌

## ハレとケ

ハレは非日常、ケは日常を意味し、アートリビングでの稽古の成果をホールで発表する、ケからハレへという文化の家のコンセプトを盛り込んだ情報誌にしたいという願いから名付けられています。

第8号 2019年4月  
発行:長久手市文化の家  
印刷:株式会社スタンパール社  
デザイン:大瀧琴美

編集:小島祐未子(家鴨の編集舎) / 岡田百合香(長久手市文化の家)

編集後記

皆さん、お気づきでしょうか。今回のレポートに使われている写真の解像度が荒いことに。本誌作成中に、ハードディスク破損・復旧不可という悲劇が起こり、2018年度の写真データがほぼ失われてしまいました。ですので今号は、Facebookやブログから写真を再保存して作成されました。当たり前ですが、過去の記録って、二度と手に入れることができないんですよね。希少価値の高さを痛感しました。“残す”という点において、この情報誌は大きな役割を担っています。アーティストの熱や制作側の想い、きちんと残していきたいと思います。

(「ハレとケ」担当:岡田百合香)

## クーテシガーナの教えて、齋藤さん!



長久手市のマスコットキャラクター、クーテシガーナが文化の家のアレコレをスタッフに質問するコーナー。今回は、長久手市劇団についてのギモンを齋藤さんに質問してみました。



齋藤 あい  
文化の家事業係  
長久手市劇団座☆  
NAGAKUTE事務局副担当



長久手市劇団座☆NAGAKUTE  
つてなごっ!

長久手市の市民の劇団です。文化の家がオープンした平成9年に発足し、今年で結成21年目です。

団員は約20名で、若い世代から年配者まで、幅広い年齢層で構成されています。

どんな活動をしているの?

毎週金曜日の夜に文化の家で佃彦彦さん(劇団B級遊撃隊主宰)の指導を受けて演劇に磨きをかけています。定期公演が近づくと、練習日は週2~3回に増え、指導にも熱が入ります。ガレリアパフォーマンス出演に加え、公開稽古を実施しており、毎年3月には定期公演(3ステージ)を行っています。

公演は日本の渋い作品から、海外作品のリメイクなど、シリアスなものからコメディまで、幅広いジャンルを演じています。

どうやって入るの?

随時団員を募集しております。対象は満15歳以上の演劇に興味のある人。会費は毎月1500円です。  
興味のある人は是非一度稽古の見学にきてください! 見学ご希望の方は事前に文化の家にご連絡をお願いします。お待ちしております!!

リレー連載 ハレとケのあわい vol.8

## 何事も楽しんでやってみよう。

それが私のモットーである。例えば旅行。自由に動いて楽しみたい私は、ガッチガチに予定を決めるのではなく、目的地(国内なら県単位)を設定して、有名どころを2つ程度選択し、おおよその行く時間を決める。ただそれだけ。残りの時間はフリー。予定を決めすぎると、その時間に行かなければ! という焦りが先行し、旅行全体を楽しめないからだ。いつからこのように楽しむことを重点に考え始めたのか振り返ってみた。どうやら、この考えは、私が大ケガをした時に生



TOYAMAキラリ(富山)



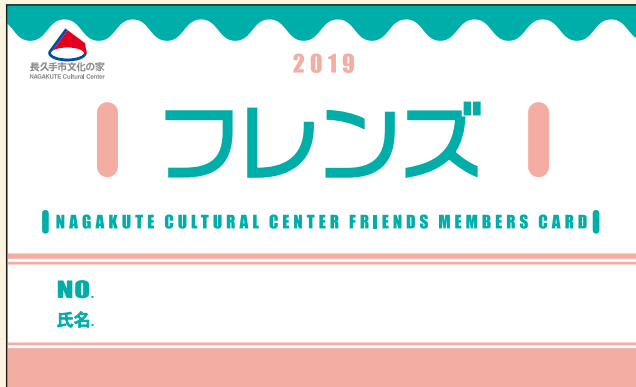
開間岳(鹿児島)

まれたようである。それまでは、特に何も目標もなく、職場と家を行き来する毎日を送っていた。大ケガをし、入院生活が始まったとき、『オレの人生終わった』そう考えていた。数ヶ月間の入院生活、様々な人間模様を見ることができた。中でも、どんな辛い状況でも笑って過ごす人たちが印象に残った(空元気かもしれないが)、『こんな生き方もあるんだ! オレも頑張ろう。こんなケガがなんだ! これからの人生もつと楽しもう!』その考えが発展して、『何事も楽しんでやってみよう』という形になった。このことは、自分の人生の中でも大きな役割を担っていて、何があってもへこたれない、強い性格を作り出した。  
『よし、今日も楽しむぞ!』  
そんな言葉をキーワードに、私はこれからも人生を歩んでいく。

(文化の家事業係)

# フレンズ会員募集中!

～フレンズに入ってもっとお得に楽しもう!～



## 〈フレンズ会員とは?〉

文化の家ではオリジナル企画をはじめ、音楽・演劇・伝統芸能等、いろいろな自主事業を行っています。フレンズ会員になると、チケットの先行発売や割引等のさまざまな特典があります。

## ～フレンズ会員特典～

- ①文化の家自主事業公演チケットの割引
- ②文化の家自主事業公演チケットの先行発売
- ③機関紙、情報誌、事業案内などの刊行物郵送
- ④フレンズが行う文化事業、交流事業への参加

※記載された内容は変更になる場合があります。ご了承ください。

【会費】 個人会員 年額1,500円(10月1日以降に入会の場合は1,000円)  
 家族会員 年額1,000円(機関紙・事業案内等の郵送はありません)  
 法人・グループ会員 年額15,000円(10月1日以降に入会の場合は10,000円)

【有効期限】 入会日から最初に訪れる3月31日まで。  
 【入会・更新方法】 文化の家1F受付へお申し込みください。便利な郵便振替もございます。詳しくはお問い合わせください。

## 今後の主な公演のご案内 Pick Up

<p>愛と知のちからパートXIII 「あいちトリエンナーレ2019にむけて 三尾公三・上田薫展 - 時代を超えるリアルと幻想」</p>	<p>毎年恒例、愛知にゆかりのある近現代の洋画家の作品を集めた美術展。今回の展示会は、愛知トリエンナーレ開催年にちなんで現代美術の分野で著名な三尾公三及び上田薫の作品を展示します。</p>	<p>■4/17(水)～4/25(木) 午前10時～午後7時 展示室 料金:入場無料 ※4/22(月)休館日</p>
<p>長久手フォレスト合奏団 第15回定期演奏会 フィレンツェの思い出</p>	<p>愛知県立芸術大学OBで結成された弦楽合奏団。今回は、地元の若手チェリスト・福本真琴さんと協奏曲で共演します。</p>	<p>■4/21(日)開演14:30(開場14:00) 森のホール 料金:(前売)【フレンズ会員・一般】2,000円 【学生】1,500円 (当日)【フレンズ会員・一般・学生】2,500円 ※全席自由 ★発売中</p>
<p>合唱ミュージカル 「ぞうれっしゃがやってきた」</p>	<p>戦後「ゾウ列車」が走って70周年、日本中から東山動物園へ子どもたちを乗せて走った特別列車。小出隆司原作のこの作品を親と子のみどりの合唱団が演じます。</p>	<p>■6/8(土)開演16:00 6/9日(日)開演11:00、15:00 森のホール 料金:(前売)【フレンズ会員・一般】1,500円 【高校生以下・障がい者】1,000円 (当日)【一般】1,800円 【高校生以下・障がい者】1,300円 ※3歳以下ひざ上鑑賞無料(席が必要な場合は有料) ※障がい者の介助者も一名まで障がい者と同料金。障がい者料金で購入希望の場合は、購入時に障がい者手帳を提示。 ※全席自由 ★発売中</p>
<p>フレンズ企画Part.40 ミュージカル落語 ピンチをチャンスに変えるキュートな生き方</p>	<p>フレンズスタッフによる自主企画。ミュージカル俳優出身の落語家・三遊亭究斗が出演。演奏に合わせて歌い語る「ミュージカル落語」をお届けします。</p>	<p>■7/21(日)開演17:00(開場16:30) 森のホール 料金:【フレンズ会員】2,000円(会員本人のみ) 【一般】2,500円 ※全席自由 発売日:【フレンズ会員】5/4(土) 【一般】5/11(土)</p>



## 長久手市文化の家

〒480-1166 愛知県長久手市野田農201番地

お問合せ tel.0561-61-3411

〈HP〉[http://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct\\_bunka\\_ie.html](http://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct_bunka_ie.html)

〈スタッフ日誌〉<http://bunkanoie.blog.fc2.com/> [f](#) 長久手市文化の家 [t](#) @bunkanoie

### 交通アクセス

- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、「リニモ」はなみずき通駅下車、徒歩7分
- 地下鉄東山線藤が丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、名鉄バス愛知医科大学病院行きの一部(4番乗り場)または、菱野団地行きの一部(5番乗り場)、長久手文化の家北下車、徒歩4分
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、トヨタ博物館前行き、長久手文化の家北下車、徒歩4分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分、名古屋瀬戸道路長久手インターから車で10分



※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。